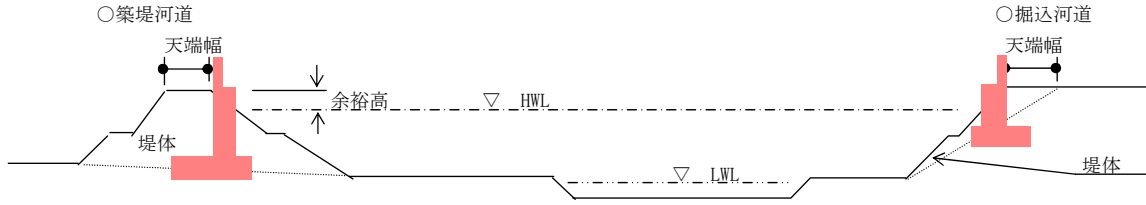


河川構造令

河川定規図



1. 天端幅

計画高水流量(m ³ /sec)	天端幅(m)
500未満	3.0
500~2,000未満	4.0
2,000~5,000未満	5.0
5,000~10,000未満	6.0
10,000以上	7.0

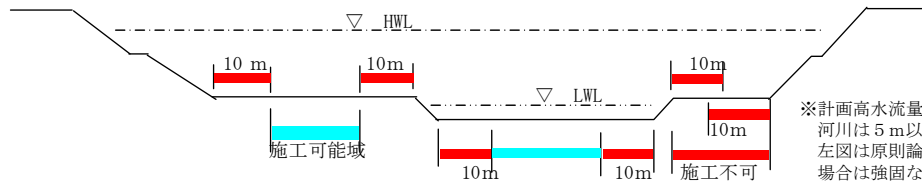
2. 余裕高

計画高水流量(m ³ /sec)	余裕高(m)
200未満	0.6
200~500未満	0.8
500~2,000未満	1.0
2,000~5,000未満	1.2
5,000~10,000未満	1.5
10,000以上	2.0

2. 橋台位置

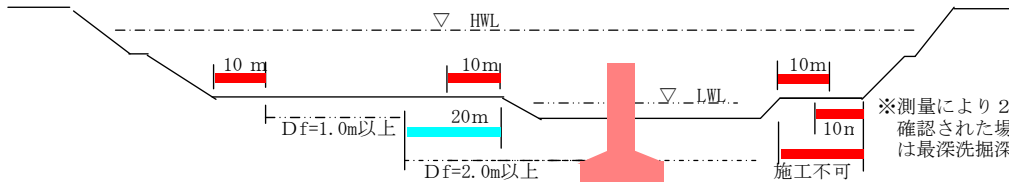
河川形態が築堤河道と掘込河道かによって堤体の位置付けが異なり、上図に示す位置まで堤外地側へ近づけることができる。なお、川幅が50m未満の河川においては橋台前面が堤防の表のり肩を犯さないものとする。

3. 橋脚位置



※計画高水流量が500m³/sec未満の河川は5m以上離すこと。左図は原則論であり、やむを得ない場合は強固な護床工 or 保護工を設けるものとする。

4. 橋脚根入れ深さ



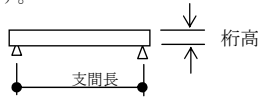
※測量により2m以上の洗掘深さが確認された場合、計画河床もしくは最深洗掘深さを採用すること。

5. 橋脚の阻害率

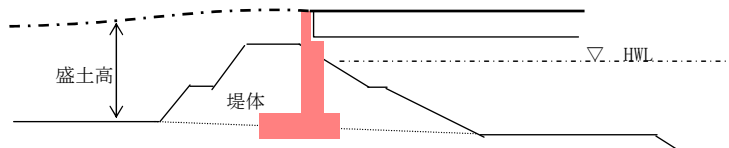
橋脚の阻害率は一般的に治水上の理由から5%以内が提案されている。ここで、阻害率は橋軸方向の橋脚の総幅を河川幅で割った値で表す。

6. 桁高

桁高は、一般的に支間長の1/(18~20)程度である。

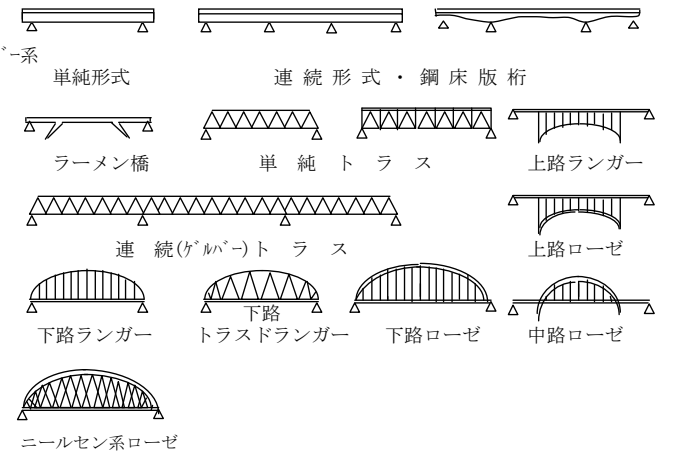


※ 築堤河道の場合、一般的に堤防から桁高分だけ堤内地側の盛土が高くなり、有明粘土などの軟弱地盤が分布する場所においては、盛土による安定性が懸念される。

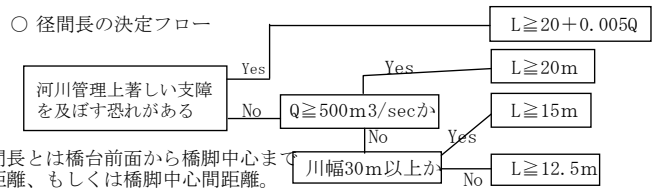


橋梁形式と支間長

形式別標準適用支間長	50 100 150 200																			
	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100	110	120	130	140	150	160	170	180	190	
P	プレテン桁																			
	中空床版																			
	単純工桁																			
	単純合成桁																			
	連続合成桁																			
C	連続合成桁																			
	単純箱桁																			
	連続箱桁(片持工法)																			
	連続箱桁(支保工法)																			
	π型ラーメン																			
RC橋	中空床版																			
	鋼床版桁																			
鋼	プレート	H形鋼橋																		
		非合成I桁																		
	ト	合成I桁																		
		非合成箱桁																		
	ガ	合成箱桁																		
		非合成I桁																		
	ダ	連続合成I桁																		
		非合成箱桁																		
	系	鋼床版桁																		
		ラーメン橋																		
トラ	単純トラス																			
	連続トラス(ゲルバー)																			
補剛	ランガー桁																			
	ローゼ桁																			
アーチ	ランガー桁																			
	トラスランガー桁																			
系	ローゼ桁																			
	ニールセン系ローゼ桁																			
アーチ系																				



○ 径間長の決定フロー



※径間長とは橋台前面から橋脚中心までの距離、もしくは橋脚中心間距離。